

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 藤本 梓
所属 (School) 生命環境科学域 緑地環境科学類
学年 (Grade) 3 年

留学先 (Name of overseas institution)
ドイツ/ヴッパータール大学
留学期間 (study abroad period)
2018/10/2~2019/7/31

記入日 (Date) 2019/8/5

留学レポート Study Abroad Report

ドイツと日本の林業を比較すると、ドイツの森林率は日本の約 70%に対して約 30%と低いにもかかわらず、木材生産量は日本の 3 倍と高いです。私はそんな生産性の高いドイツの林業に興味を持ち、2018 年 10 月 2 日から 2019 年 7 月 31 日までヴッパータール大学に交換留学生として在籍しながら、林業会社でインターンシップを行いました。ここではその成果を大学生活で学んだこととインターンシップで学んだことに分けて報告します。

☆大学でのドイツ語の授業

まず、ヴッパータール大学ではドイツ語を学ぶ授業を受けていました。日本の第二外国語の授業で習う文法を復習している感覚でしたが、もちろん説明をドイツ語でされるのでそこを理解することが大変でした。さらにリスニングやライティング、ディスカッションの練習もしました。先生にもよりますがたくさん宿題が出る時もありました。最初のクラス分けテストで下から A1, A2, B1...と分けられ、8 週間授業を終えるとテストで上のクラスに通えるかが分かります。クラスが上がるごとに文法の内容は減り、ディスカッションやリーディングの内容が増えたので難しかったです。自習に加え、クラスメイトと教え合いながら習得していました。

ただ、授業で学んだことはドイツ語だけではありませんでした。例えばライティングの宿題では食事の文化や働き方について書くのですが、日本の様子を例として挙げるために調べて現状を再確認したり、労働環境に関しては残業や過労という概念が他の国では浸透していないようなので先生やクラスメイトからツッコまれたりしました(笑) また、日本人は授業中に分からないことを質問したり自分の意見を話したりするのをためらいがちですが、他の国出身の学生は物怖じせずに尋ねたり発言したりしていて、そこは見習わなければいけないと感じました。そして、ドイツに来て一番強く感じたのは、学生の多様性でした。ドイツの立地も理由かもしれませんが、ヨーロッパだけでなく中東やアジアなど様々な国からの留学生が集まっていました。また、語学の授業では留学生だけでなく、働いていたり結婚してたりする大人の方達にも出会いました。「なにかを勉強しようと思う時に、年齢や肩書は関係ないんだ!」ということに気づかされました。これは日本という島国にいると感じにくいことだと思います。日本で留学生と話した時も大学院生など年上の人が多くて「何歳になってもわざわざ日本に勉強しに来ていてすごいなあ。」とかぼんやり思っていました。でもドイツに来たらそんなこと当たり前のように、私は生き急いでいたのかなと思います。長い人生の中で学生生活って短いし、ましてや 1 年の留学生活なんて微々たるものだから、「ちょっとくらい回り道しても自分の将来をもっと充実させたい!」と考えるようになりました。

☆積極性の大切さを感じたイベント

留学中は自分から動いていかないといけない、待っていても始まらない、ということを改めて実感しました。受け身だと本当に授業を受けるだけで 1 日が終わり、あっという間に月日が流れて行って、やばい!と焦ります(笑) そんな焦りも感じつつ、ドイツでの生活にも慣れた頃、国際課の方から「日本の文化や料理を紹介する Japan Evening というイベントをするから手伝ってこない?」と日本人留学生に声をかけてもらい、プレゼンテーションの発表に立候補しました。しかしイベントの 1 週間前にそれを聞いて(笑)、なかなかのハードスケジュールで準備して大変でした。でも当日は予想していた以上にたくさんの人達が来てくれて、担当の職員の方にも喜んでもらえました! 今後他の色々な国バージョンでこうしたイベントがあるそうなのですが、その先駆けとなれて良かったです。このイベントを開催する時、お客さんを集めるためにクラスの他の国の留学生に話しかけたり、先生にお願いしてチラシを黒板に貼ってもらったり...小さな勇気を積み重ねました。とても緊張したけれど、これがきっかけで友達が出来たりしたので良かったです!



Japan Evening で日本の文化を紹介する様子（左）と参加者全員の集合写真（右）

☆林業インターンシップ先を見つけた経緯

先にどうやってインターンシップ先を見つけたか説明します。まず、日本の大学の森林学部や林業大学の
中からドイツで研修をしている所を探し、それらの大学の先生方にメールを送りました。しかし、その研修
に参加することは難しいと言われましたので（実施大学に在籍していないと、安全の確保などが難しいた
め）、ドイツのどのような所で研修しているか、また現地でのコーディネーター（日本人）の方を教えてい
ただきました。

それから、教えていただいたキーワードを元に、Google マップで居住していたヴッパタル市内の林業
施設を検索し、ウェブサイトの問い合わせフォームからインターンシップ協力をお願いするメールを送りま
した。10 件程に送りましたが、半数程から返信があり、そこから確実に研修の約束が出来たのは 2 件でし
た。

この研修先を見つける過程が一番大変で、まず返信が来ないことも急に音信不通になることもザラで挫け
そうになりましたが（笑）、諦めず連絡を取り続けて良かったと思います。2018 年夏まで、私は大阪府立大
学の海外農業研究会という部活に所属していました。在籍時に海外で調査した際にも用いた方法なのです
が、はじめに海外で研修を行なっている日本の大学を探す方法は、海外でのインターンシップ先を見つける
上でかなり近道になるので有効だと思います。実際、現在海外インターンシップを計画している友人にも
これらの方法を伝えました。

☆林業インターンシップで学んだこと

続いて、インターンシップで得たことを報告します。主に、林業会社の社長と共に森林に入り、植林や枝
切り、伐採など森林の管理の仕方を学び、害虫に侵されている木を探してマーキングし、そして輸出する木
材の全長や直径を計測しました。

林業機械は 6~8 輪型で 10t 以上の大型機械が多かったです。1 台で伐採、集材、造材、搬出までできる
ので非常に効率的だと感じました。さらに、普通車と同様にモニターで速さや強さを確認しながら操作でき
るので、運転しやすさも魅力だと思います。またドイツの林業界では、夏はチームに分かれて伐採や枝切
り、集材を行い、冬は全員で伐採をするそうです。伐採はコンテナの大きさに合わせて行われ、集材して
からコンテナごとに番号を付けて全長や直径を計測し、素早く出荷できるようにします。さらに、真っ直
ぐな木材か、枝が全て切られているか、変色していないかによって階級が分けられます。



大型林業機械を運転する様子（左）と集材されて番号を振られた木材（右）

しかし、そんな効率的に林業が行われているドイツでも今問題になっていることがあります。それは異常気象です。2年程前からドイツでも夏は気温が上昇しひどく乾燥するようになってしまいました。その結果、キクイムシの被害に悩まされることとなりました。キクイムシのメスは木の表面近くに産卵し、幼虫は木を食害して、成虫になると近くの木に飛び移りまた新たな木が食害されるため、被害にあった木はすぐに伐採しなければなりません。しかし、その木は本来ならば伐採されず成長し続ける予定だった木です。市場にはそのような想定外に伐採された木が多く集められ、単価が低くなってしまいました。例えば、オウシュウトウヒという種類の木の価格は2年前では1m³あたり100ユーロでしたが、今では45ユーロにまで安くなっています。まさに地球温暖化が自然だけでなく人間にも影響していると感じました。

少し話がそれますが、ドイツでは国民が自然と共存している印象がとても強かったです。林道が整備されていることもあって犬や乳児を連れて散歩する住民がとても多く、Kleingarten（クラインガルテン）で庭仕事を趣味として楽しんでいる人もいました。Kleingartenとは、市民が自治体などから賃借して栽培する郊外の小さな菜園のことです。さらに私有林を持っている方が、「国有林の枝が私有地まで伸びてきているので手入れしてくれないか。」と林業従業者に頼む場面も多く見かけました。こうしたドイツ国民の自然を大事にする姿勢は、第二次世界大戦や産業革命の後、爆撃や水質汚染によって森や川が壊滅的に破壊されたり汚染されたりしたことで強まったそうです。今でもドイツは環境大国と言われるように、ゴミの分別は細かくされており、プラスチック製の包装はとても少ないです。日本でもプラスチック製の包装を減らす取組が広まってきているようですが、ドイツ同様公害があった国として環境問題をより身近なものとして捉えるきっかけになれば良いなと強く感じます。

ドイツで林業について学び、改めて林業は過去、現在、そして何年も先の未来のことを考えながら行う仕事だと感じました。自然は毎日変化しており、さらに昨今では異常気象の影響も考慮しなければなりません。実際、今のドイツは乾燥していて降水量が少ないためクリの木が育ちやすい環境になっているそうです。今回のインターンシップで得た知識と、今後研究室で学ぶ気象に関することを結び付けて、日本の林業を再生できるような人材になりたいと思います。

☆留学を考えている皆さんへ

突然ですが、留学する人ってどんな人だと思いますか？めちゃくちゃ行動力がある人！だと思われるかもしれませんが、でも私はそんな人じゃありません笑。頭の中でぐるぐる考えて悩みに悩んでから行動する慎重派ですし、どんどん人前に出ることも得意ではないです。何かに挑戦する時はいつも少しずつ勇気を出しています。留学に関しても、ずっと前から周りの人に勇気を出して留学したいと話していて、すると大学の国際課の先生方から奨学金のお話をいただけて…なんとか夢が叶った、という感じです。夢を話していれば叶う、というのはこういう事から言われるのかもしれませんが。周りの人に話していれば、必ず助けてくれる人が現れるので。留学は絶対に一人ではできません。まずは自分の思いを自分の言葉で周りの人達に伝え、応援してくれる人を少しでも多く作ってください。そうした小さな勇気、行動は留学する際に必ず積み重ねていかなければならないと思います。

また、留学することの意味を理解することはとても大切だと思います。留学がゴールではないし、留学さえすれば自分がものすごく成長する、ということはないと思います。実際、交換留学では受け身でいると本当にただ授業を受けるだけで毎日が過ぎ去っていきます。語学の勉強をするだけなら、正直日本でもできると思います。語学学習に加えて、言葉も文化も異なる人達と一緒に暮らしたり、自分から積極的に外へ出たりする留学の大変さも分かった上ならば、きっと実りある留学になるはずです。

海外に出てみれば学ぶこと、感じることはきっとたくさんあります。迷っている人はぜひ一歩踏み出して、日本ではできない経験をしてほしいです！



私は社交的なタイプではないので、たくさんの友人ができたわけではないのですが、必ずもう一度会いたいと思える友人に出会えたことがとても幸せだなと思います。

このような貴重な経験ができたのも国際課の先生方をはじめとする多くの友人や家族のおかげです。最後になりましたが心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この10か月の留学中支えてくださった方々への感謝を忘れず、そして、吸収した知識や経験をこれからの人生に生かしていきたいと思います！